



**1970 年日本万国博覧会 日本政府出展「日本館」上映
8面マルチ映像作品
市川崑監督 『日本と日本人』のフィルム原版発見**

概要

1970 年開催の日本万国博覧会の日本館で上映され、その後所在不明だった 8 面マルチ映像作品『日本と日本人』のフィルム原版を、先月東京都内にて発見しました。この作品は市川崑監督によるもので、富士山の四季とその山麓に生きる無名の人たちをとおして、日本と日本人のすがたと精神をとらえ、将来を見据えて描かれたものです。

■背景

『日本と日本人』は 1970 年日本万国博覧会の日本政府出展「日本館」のために製作された映像です。上映形式は 8 面マルチ映像（縦 2 面×横 4 面）で総スクリーンサイズは高さ 1.6m×幅 4.8mにもなり（図 1、図 2）、使用フィルムは 35mm ダブルフレームで最新の国産映像技術を駆使したものでした（図 3）。

監督：市川崑、脚本：谷川俊太郎、音楽：山本直純という最高のスタッフを擁しています。

このフィルムは博覧会終了後に保存と管理の責任所在があいまいなまま時間が経過し、今日にいたっては「一切残されていない」とされてきました。しかしながら残されていないという根拠自体が不明なため、原版の所在調査を開始しました。



図1) 日本館第5ホールの上映風景



図2) 会場全景: 模型

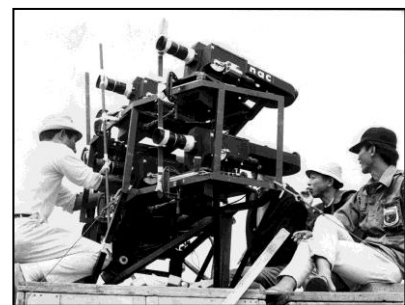


図3) 8台の 35mm ダブルフレームカメラ

■調査結果

2013 年 5 月 27 日（月）九州大学大学院芸術工学研究院の脇山真治は、(株)イマジカイメージワークスの小野雅史氏の立ち会いのもと、東京都内の民間倉庫において、『日本と日本人』のフィルム原版を発見し、日本万国博覧会終了後 43 年にしてその存在を確認しました（図 4、図 5）。

原版は 2,000 フィート缶に入っており、1 スクリーン当たり 3 ロールに分けて収納され、合計 24 缶あります。状態の詳細（カビや傷、退色等）は未確認ですが、巻き取り状態で目視確認した限りでは良好とおもわれます。

またこれに先立って日本万国博覧会記念協会の文書資料室での調査にて、完成版「フィルムコンテ」の存在も明らかになりました。これは作品全編をポジフィルムの切りぬき構成によって 8 面を構成し、絵コンテ状に配置したもので、上映作品全体のストーリーの流れが把握できるものです（図 6）。



図4) フィルム原版



図5) 2,000 フィート缶で24缶



図6) 「フィルムコンテ」より抜粋

■『日本と日本人』のテーマと今日的な意義

この作品は日本館の展示テーマをうけて、日本館の締めくくりとなるもので、「日本と日本人」の姿とその精神をとらえるため、日本のひとつの象徴ともいえるべき富士山と、その山麓における無名の人たちの生活をテーマとしています。富士山と向き合い富士山と闘いながら生きている母娘をとおして日本人の魂のふるさとを掘りおこして未来を見据えようとしています(上映時間 20 分)。

今日、富士山は世界遺産登録を目前に控え、富士山と日本人の精神性があらためて注目されています。日本の高度成長の一方で、すでにその命脈がこの『日本と日本人』にもあるとすれば、フィルム原稿の発見は、1970 年当時の日本人と富士山との関わりを、世界に向けたメッセージとしてどのように発信したかを知る貴重な映像と思われまます。

■用語解説

(1) 35mmダブルフレーム

劇場映画で使われるフィルムと同様の35mm幅ですが、一コマの大きさが劇場映画の2倍あります。したがって拡大投影に対して高い解像度をたもてます。フィルムは横方向に送られます(劇場映画は縦方向です)。

(2) マルチ映像

複数の映像を同時につかって上映するときの映像表現とシステムの総称です。『日本と日本人』はスクリーンが複数ありますのでマルチスクリーン映像ともいわれます。

■写真出典

図1：『日本万国博覧会・日本館運営報告書』日本貿易振興会,昭和46年1月

図2：『日本館』通商産業省版(出版年月不明)

図3：(株)ナックイメーヂテクノロジー所蔵

図4～図6：脇山真治撮影

■追記

(1) 上記の内容は平成25年6月15日開催の日本展示学会第32回研究大会にて発表予定です。

(2) 本調査は平成24年～平成26年文部科学省科学研究費補助金の支援を受けた「国際博覧会における展示映像の記録・保存に関する研究」に基づいて行っているものです。

【お問い合わせ】

大学院芸術工学研究院 教授 脇山真治(わきやましんじ)

電話：092-553-4515

FAX：同上

Mail：wakiyama@design.kyushu-u.ac.jp